

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9 月 27日
- 事業名 : 命を脅かす病気を持つ子ども、その家族に寄り添い共に歩む場作り
- 資金分配団体 : 公益財団法人原田積善会
- 実行団体 : 一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
①-1(1)LTCの子ども・家族に向けたパンフレット、HP作成	配布先（協力医療機関、協力福祉施設、患者会など）の数	配布先が増加する	2024年3月	協力団体が2か所増えたことにより配布先が増加	2
	HP・Facebookページの閲覧数	HP・Facebookページの閲覧数増加する	2024年3月	Facebookページのフォロワーが1550を超え、順調に閲覧者数が増えてきている。	1
	ちらし・HPでイベントを知った参加者の人数	ちらしを見て新たに参加した人数が増える	2024年3月	オンラインイベントを北大入院中の子どもたち、きょうだいさんに実施したことにより、新たな6家族が参加に加わってくれた	2
	HPとFacebookページの更新頻度	更新頻度が増加する	2024年3月	Facebookページは150回の更新。HPもFacebookページに連動して更新をするようにした。そのほか、インスタも開始し、3つの媒体で周知をするようにしている。	2
①-1(2)理解促進につなげるために、ホスピスカー	ブース訪問者数	ブース訪問者数（50人）	2024年3月	車の選定に時間を要しており今年度下半期購入、塗装が来年度上半期の予定のためまだ未実施。来年度下半期より開始予定（以下同様）	3

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
で各地の地域イベント、企業等にブース出店（こどもホスピスの説明、物販、こどもたち向け遊びのミニ・ワークショップ）	資料配布数	訪問地の関係団体に資料を配布する	2024年3月	同上	3
	ワークショップ参加者数	ワークショップ参加者数（25人、ブース訪問者のうち50%）	2024年3月	同上	3
	利用者の声	利用者から肯定的な反応が得られる	2024年3月	同上	3
	イベント後の寄付額	イベント後の寄付額が増加する	2024年3月	同上	3
①ー2（1）仮の場ができる	仮の場ができる	仮の場ができる	2024年3月	桑園地域にマンションを無償で借りることができ、2022年10月1日より運用開始	1
（2）LTCのこども・家族向けのイベント開催	参加者数	イベント参加家族数を上げる	2024年3月	新たな6家族にイベントに参加して頂いた	2
	リピート率	リピート率を上げる	2024年3月	オンラインイベントを実施することで繰り返し参加する家族が7家族に増えた	2
	開催回数	年間のイベント回数を増やす	2024年3月	コロナ禍において、できうる安全策をとり対面イベント1回、オンラインイベント3回の計4回のイベントを実施。	2
	開催地の数	イベント開催地を札幌以外に広げる	2024年3月	オンラインイベントを併用することにより、参加地域が北見、帯広、函館、東北地域の子どもたちが参加	2
（3）ホスピスカラの完成	参加者数	地域の対象者の参加が増える	2024年3月	車の選定に時間を要しており今年度下半期購入、塗装が来年度上半期の予定を次年度に変更予定のためまだ未実施。来年度下半期より開始予定（以下同様）	3

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
	提供するプログラムの内容と数	利用者アンケートを反映してプログラム内容と数が増える	2024年3月	同上	3
(4) スタッフの雇用	ボランティアスタッフの確保	ボランティアスタッフ数を増やす	2024年3月	仮施設運用に伴う必要スタッフ数の増加のため、オンライン説明会を2回開催し、10名のボランティアが新たに加わる	2
	研修の回数	研修会を3年間で5回開催する	2024年3月	今年度下半期に2回実施予定	2
②-1 (1) きょうだい支援の理解を深める研修会	研修会の開催回数	5回開催する	2024年3月	今年度下半期に2回実施予定	1
	研修会の開催地数	3つの市で研修会を開催する	2024年3月	今年度は帯広か函館で実施予定	2
	研修会への参加者数	3年間で100名以上の参加者になる	2024年3月	既に昨年度62名の参加者があったため、今年度下半期の実施により100名以上を達成する見込み	1
②-2 (1) きょうだい向けのイベント実施	(1) きょうだいむけのイベント参加者数・リピート率	毎年参加者が増えていく	2024年3月	7月にキャンプイベントに参加したが、5名のきょうだいの参加があり、オンラインイベントでは、病棟と自宅から一緒に参加するきょうだいさんの姿も見られた。	2
		リピート率が上がっていく	2024年3月	イベント回数がすくなく、上がっているとは言い切れない側面はあるが、繰り返し参加する家族が3家族増え7家族いる	2
	(2) きょうだいむけのイベント実施数	開催数が増えていく	2024年3月	今年度は既に1回実施。冬にも1回実施予定。	2
③-1 LTC のこ	患者団体との連携団体	患者団体との連携が10団	2024年3月	北海道ファミリーハウスの会、北海道レモネードの	1

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
ども・家族が孤立しないための病院・患者団体・行政とのネットワーク構築（LTC の子ども・家族の課題やこどもホスピスの意義に対する理解促進とコミットメントを引き出すための協議）	数	体となる		会などにつながりをもつことができ、順調に増えていっている。また、来年度北大で開催される小児血液がん学会の企画委員としても関わっている。	
	北大病院との定期ミーティング回数	北大病院との連絡協議が年6回となる	2024年3月	北大医師が最低月2回の定期ミーティングに参加してくれており、順調に話し合いが展開されている。	1
	北海道庁、札幌市との土地交渉の協議の回数	北海道庁、札幌市との協議月1回	2024年3月	道側の対応は停滞気味ではあるが、札幌市との交渉は順調に進んでおり副市長、市議会議長とは月2回ペースで話し合いを持っている。市議会議長は横浜の見学も同行。	1
"③-2 (1) LTC のこども・家族が地域社会のなかで孤立しないための市民、企業、スポーツ芸術、文化団体とのネットワーク構築（LTC の子ども・家族の課題やこどもホスピスの意義に対する理解促進の	講演会への参加者数	講演会平均来場者数が100から150になる（コロナ禍の会場制限等により変動あり）	2024年3月	オンライン併用をし、準備不足で接続できない時間帯もあったものの、108名の参加があった。	2
	賛助会員数	賛助会員数が53から150になる	2024年3月	会員数は微増の43件。広報に力を次年度はいれていく。	2
	くまっこ応援団数	くまっこ応援団の数が2から30になる	2024年3月	企業支援は順調に伸びてきており、現在15社から定期的に支援を受けている。	2
	募金箱の設置数	募金箱の設置数が4から50になる	2024年3月	銀行等の小銭を預金する際の手数料の問題から、募金箱の新たな設置を現在保留中。	2
	連携イベントの数	連携イベントが0から8になる	2024年3月	今年度は北大、東北大との連携イベント（堅守会）を実施。次年度は3つを予定している。	2

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
ための講演会や協力企画*の推進) * 応援団、募金箱含む"					

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
オンラインでのイベントを増やす

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）  
北海道新聞5月7日、7月14日朝刊くらし欄

2.広報制作物等

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の適切性	代表理事 1 名	(一社) 北海道こどもホスピスプロジェクト・代表理事
内部	実施を通じた活動の改善、知見の共有	代表理事 1 名	(一社) 北海道こどもホスピスプロジェクト・代表理事
内部	組織基盤強化・環境整備	代表理事 1 名	(一社) 北海道こどもホスピスプロジェクト・代表理事

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
①命を脅かす病 気のある子ども と家族	こどもホスピスを認 知度と利用 ①- 1 認知度 (1)共に過ごす場所と してのこどもホスピ スの認知度（イベント を知ったきっかけ、紹 介者の数や種類） (2)参加者のアンケー トでの認知度	"①- 1 (1)知る手段が増加する、紹介さ れて参加することも、家族が増 える (2) * 参加者の理解度が向上する (参加前知識なし⇒参加後理解 した) * 参加者がこどもホスピスに対 して肯定的な評価をする（知人 に勧めたい、あったら行きたい と答える、専門職がいて安心し て遊べた、など）	2024年3 月	① - 1 (1) 1 年半の活動を通して、小児がん拠点病院である北大小児科 との連携、パンフレットやチラシの配布先が 5 か所増加、協力団体 の 4 か所増加等により新たなご家族が参加してくれるようになって きている。また、2 年目からはオンラインイベントを定期的に行 （既に 3 回実施）することにより、入院中の子どもたちも参加する ことができるようになってきている。 (2) イベントごとのアンケートでは、当初の亡くなる場とのこ どもホスピスのイメージから、こどもがこどもとしている場、生きる を支える場であるとの理解へと変化がみられる人がほとんどであ った。また、100%の参加者がまた参加したい、知人に勧めたいと 回答している。

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
	①-2 利用 (1)参加者数 (2)不安・心配事の軽減度"	①-2 (1) *参加回数が増える *参加できる地域が拡大する(1年目札幌圏内、2年目旭川・函館、3年目稚内) (2) *参加者が「相談ができたことで不安・心配事が軽減する」		① -2 (1) 参加家族は4家族から20家族へ、繰り返し参加してくれる家族も7家族に増えている。また、開催場所も1年目より札幌、旭川と実施し、今年度上半期はオンラインイベントを3回開催したということもあり、帯広、函館、東北地方より参加したご家族があった。 (2) 初の泊りでのキャンプイベントにおいて焚火を囲みながらご家族と丁寧に向き合う時間を持てたことで、いつでも話ができる場ができた、との認識を参加家族には持ってもらえたが、不安を軽減した、とまでは言えない。
②命を脅かす病気のある子どものきょうだいのきょうだい	病児ときょうだい児へのサポート ②-1理解とサポート (1) *北海道におけるきょうだいのおかれている現状理解度(研修) (2)精神的負担の軽減 *参加者層の広がり ②-2 きょうだいの精神的負担の軽減 (1)	②-1 (1) *研修終了後の理解度が深まる (2) *医療、福祉関係者のみならず幅広い層からの研修に参加するようになる ②-2 (1) *利用開始時よりも自分の不安	2024年3月	② -1 (1) 研修終了後のアンケート調査では、全員の理解度が深まったことが確認された。 (2) 昨年度の研修ではむしろ、医療、福祉関係者よりも当事者であるきょうだい、学生、教育関係者の参加が三分の2を占めた。 ② -2 (1) きょうだい児も一緒に参加できるイベントは家族にとっても参加しやすく、特にキャンプイベントでは、きょうだい児同士が

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
	<p>* きょうだいへのアンケートから得られる不安の軽減(イベント)</p> <p>(2)</p> <p>* 参加者数"</p>	<p>や気持ちを表現できるようになる</p> <p>* きょうだい児の様子を見ている保護者から肯定的な反応が得られる(いつもより話す、明るい、楽しそうだったなど)</p> <p>(2)</p> <p>* 参加者数が増加する、リピート率の増加"</p>		<p>仲良く元気に遊ぶ姿が随所に見られ、保護者のアンケート結果からもきょうだいを参加させて良かった、日頃と違う面がみられた、などの肯定的評価を頂く。</p> <p>(2) オンラインイベントを増やしていることもあり、参加者、リピート率ともに増加している。</p>
<p>③-1</p> <p>(1)</p> <p>医療機関や福祉施設、教育機関、支援者</p>	<p>支援体制の強化</p> <p>③-1</p> <p>(1)</p> <p>* 子ども、家族のおかれている状況が医療機関や福祉施設、教育機関から認知される。</p> <p>(2)</p> <p>* アンケートや参加者の声から支援者のこどもホスピスに対する理解度が高まる</p>	<p>③-1</p> <p>(1)</p> <p>* 医療機関、福祉機関、教育機関から認知度が高まる。</p> <p>(2)</p> <p>* 北海道内でのこどもホスピスの理解度が高まる</p>	<p>2024年3月</p>	<p>③-1</p> <p>(1) 小児がん拠点病院である北海道大学小児科以外に、イベントを通し、旭川医科大学小児科とも連携を模索している段階であり、また小児血液がん学会の企画委員であることから、今後札幌医科大学、こどもっくる、北楡病院など小児がんを扱っている病院の医師看護師とのかかわりも増えてくることから今後のさらなる認知が期待される。福祉機関とは仮施設を無償提供して下さっている協力者が重心の放課後デイ等を運営されている方で、訪問看護ステーション等も運営されている。この団体との協力体制を築くことができ認知度を高めることができた。教育機関とは、旭川東高校、旭川大学、札幌国際大学の生徒学生にボランティアで関わってもらうなど認知度が高まりつつある。</p> <p>(2) 北海道内でのこどもホスピスの理解度が高まったかどうか</p>

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
	③-2 (1) * 支援者の数が増える"	③-2 (1) * 協力団体の数が増える * 賛助会員の数が増える"		これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況を測定することはできてはいないが、北海道日本ハムファイターズの公式ツイッター、HPなどで取り上げていただいたことで、フォロワーから3000の「いいね」がついていることから、認知度の高まりは期待できる。 ③-2 (1) 賛助会員は100名増え協力団体数も15となり、着実に増加している。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
①命を脅かす病気のある子どもと家族が、共に過ごす機会や場所があることを知り(①-1)、利用できることで(①-2) 病気や障がいを忘れる楽しい時間を過ごし、相談を通して不安が軽減される。	パンフレットの配布先、SNSでのフォロワーの増加、北大との連携、メディアでの定期的な取り上げ、新たなボランティアメンバーによる紹介等により、認知度が高まり、新たな家族の参加が増加している。また、イベント時の家族の表情、そして何気ない会話から、こどもホスピスメンバーと過ごす時間が家族にとって安心できる楽しい時間となっていることが理解できる。	今後は仮施設を活用していくことで、1家族1家族のニーズをくみ取り、病児、きょうだいにとっては楽しい場所となるように、そして家族にとっては安らぎを感じてもらえるような場所を目指す。そして利用中に信頼感を持っていただき、不安な際にはいつでも相談してもらえるような関係性を築くことを目指す。

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>②命を脅かす病気のある子どものきょうだいについて地域コミュニティの理解が深まりサポートできる人材が増え(②-1)、きょうだい児はこどもホスピス活動(イベント)に参加することにより、きょうだいを持ちやすい気持ち(罪悪感、寂しさなど)が軽減される(②-2)</p>	<p>きょうだい支援の研修会を積み重ねていくことで、そして北大・東北大との共催も実施できたことから、医療職のみならず、福祉、教育、そして当事者の方々など幅広い方々に研修を受けて頂くことで理解度が高まった。また、病児とともに参加するイベントでは、きょうだいさん同士の交流も随所でみられ、誰に遠慮することもなく楽しく遊んでいる姿があり、寂しさ等の軽減につながっている。リピート率が100%であることからこどもホスピスメンバーに信頼をおいてくれているものと思われる。</p>	<p>現在のイベントは家族単位できょうだいさんには参加して頂いているが、今後仮施設の利用などを通し、信頼感を持っていただくことで、TSURUMIでの実践のようにきょうだいさんみでのイベント等も開催していくことができるよう努めていく。また、道内主要都市でのきょうだい支援研修会の実施を目指す。</p>
<p>③地域コミュニティが命を脅かす病気の子どもと家族の課題やニーズを理解し(③-1)、命を脅かす病気の子どもと家族を地域社会全体で見守るネットワークや仲間が増える(③-2)。</p>	<p>北大との連携、NPO法人ソルウェイズとの連携、様々な大学、高校との連携などにより認知度が高まってきている。また、卓話、講演、イベント等のアンケートにより、こどもホスピスという言葉を正しく把握してくれる人が増加している。認知度の高まりにより賛助会員のメンバーも着実に増えてきている。</p>	<p>より一段とこどもホスピスの理解者を増やし、実際にこどもホスピスを支援して下さる個人、企業等を増やして組織基盤を安定させていくことに全力を注ぐ。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	仮施設を 10 月 1 日に開所するなど、短期アウトカムの目標値を大幅に上回っての成果をあげることができていると自己評価している。ただ、基盤整備の人員確保に関してのみ課題が残るため、これからはそこに総力を注いでいくことで、より円滑な運営体制をきずいていくことが求められる。

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	計画した事業は予定通り進んでいるのか	予定以上に進んでいるといえる	9 月 30 日に仮施設のメディア公開日を、10 月 1 日に開所となっており、予定以上に進んでいるといえる。その他の事業においても順調に進んでおり、今後もさらに休眠預金の効果を発揮できるよう取り組みを進めていく。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	活動の課題が共有され、適切な改善策を提案・実施できているか	できている	月 2 回の定期ミーティング、市役所との月 2 回の定期ミーティング、北大との月 2 回定期ミーティングを実施することにより、課題の共有、そして改善策を考えている。
組織基盤強化・環境整備	必要な人材育成やステークホルダーとの連携ができているか	連携はできているが人材育成は課題が残る	連携は休眠預金助成開始前と比較すると、地域社会、行政関係者、企業、医療、福祉、教育関係者と取ることはできているが、運営組織の人材確保・育成が間に合っておらず、課題が残る。

評価項目	評価小項目	評価結果	考察

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

北海道新聞の記者との関係性を既に築けていたこと、そして今までの活動で関わってきた方との関係性を維持させていたこと、北海道大学病院小児科との連携が、仮施設の開所に大きく結びついた。北海道新聞に協力してもらい、仮施設の場を求めていることを記事にして頂いたところ、以前からこどもホスピスの研修会等に参加してくださっていた、医療的ケア児の児童デイを運営されている方が即座に手上げしてくれ、一気に仮施設の開所へとこぎつけることができた。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

上述した、仮施設の開所を中間報告の時点で可能になるとは想定していなかった。そして、北海道大学小児科との連携がここまではかることができるとは想定していなかった。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
--------------	---------

<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>おおむね問題はないと評価しているが、運営組織の人材強化を図れば、より事業を円滑に計画以上に進めていける可能性があるため、今後は仮施設を運営しながら基盤強化にもより目を向けて取り組んでいくことが求められる。</p>
--	---

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

運営組織の人材強化を早急にはかりたいと考えている。現在事務局として打診している方（現在社会福祉士資格の勉強をされながら就労支援Bで勤務しているサバイバーの方）にまずは協力していただき、組織体制を強固なものとしていきたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）